

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (観光交流促進コース)		訪問国	インドネシア	
学校名	静岡県立藤枝東高校	氏名	水野美咲	学年	3年

## 1. 留学テーマと概要

留学テーマ：エコツーリズムの視点から静岡と東南アジアの結びつきを強くする

コロナ禍があげ、インバウンドが高まる中、静岡でも大型連休や長期休みにオーバーツーリズムがみられるようになった。オーバーツーリズムは環境破壊はもちろんのこと、騒音やゴミ問題、交通渋滞などにより、住人の生活に支障をきたしてしまう恐れがある。エコツーリズムという地域の自然環境や文化を保護しつつ、経済発展にも寄与する持続可能な観光を維持するにはどうすればいいのか。特にバリ島とのエコツーリズムを通じた交流を深めることで双方の地域活性化や環境保全に繋がると考えた。

## 2. 探求活動について

仮説：住人、企業、観光客が三位一体となって取り組む必要があるのではないかと。

活動内容

### A. 事前学習

#### ・焼津さかなセンター 焼津市(右写真)

- ・製茶 焼津市
- ・用宗漁港 静岡市
- ・茶の都ミュージアム 島田市
- ・石畳茶屋 島田市
- ・KADOTE OIGAWA 島田市



分かったこと

静岡県内の観光地を訪問しインタビューやアンケート調査を行った。年末年始や長期休みに大勢の観光客で賑わう焼津さかなセンターを訪れたところ、平日は約半数の店しか営業していなかった。GWや長期休み等は大型バスで国内外からの客が来るそうだが平日は極端に人が少ないため、すべての店を開けておくと赤字になってしまうそうだ。休日はまさにオーバーツーリズムともいえる状況になってしまっているため、分散させることが必要。しかしながら、スケジュール上での問題や、駅から離れているという立地の問題もありなかなか解決は難しいようにも感じた。また、海外の方とのやり取りで困ったことはないかどうかを訪ねると、今は翻訳アプリを使えば必要最低限の会話ができるので問題はないそうだ。また、私が観光客の立場であったら「これは保安検査に引っかからないかどうか」をしれるようなポスターがあると便利だと思った。生ものは勿論のこと、鯉節や、だしなどせっかく買ったのに持って帰ることが出来なかったということがないように安心してお土産選びができるような取り組みがなされるべきだと考える。

### B. 現地での活動

- ・フリースクールへの訪問
- ・障がい者施設への訪問
- ・ホテルインタビュー
- ・該当調査
- ・ランドフィル見学

分かったこと

まず、私は現地のフリースクールと障がい者施設を訪問した。フリースクールでは、経済的な理由で学校に通えない子どもたちが、観光業に関連する英語やダンスを学んでいました。観光産業が盛んなバリ島では、観光業の仕事に就くことが生活を支える大きな手段となっている。しかし、地元の人々が必ずしもそ



の恩恵を受けられているわけではなく、教育の格差が広がっていることを実感した。施設を訪問し、住民が観光業をどう受け入れ、関わっているのかを知ることで、地域社会の中での観光の役割について考えさせられたと思う。次に、私はバリ島の埋立地（ランドフィル）を訪れた。バリ島は観光客が多いため、ゴミの量も膨大で、その処理が大きな課題となっている。特にプラスチックごみの問題は深刻で、埋立地には大量のプラスチックが積み重なり、悪臭が漂っていた。この現場を見て、私は観光業の裏側にある環境負荷の大きさを実感した。観光業に関わる企業の中には、プラスチックごみを削減する取り組みを進めているところもあるものの、まだまだ対策が不十分であると感じた。この経験を通じて、企業が観光と環境のバランスをどのように取るべきかを考える必要性を強く感じ、観光業の中心となるホテルにも実際に訪れ、経営者やスタッフにインタビューを行った。観光客の求める快適なサービスを提供しながら環境負荷を減らすことは簡単ではないという課題も聞いた。これにより、企業は単なる利益追求だけでなく、地域社会との関係を大切にすることが求められていることを改めて認識した。バリ島では、持続可能な観光を実現するために「観光税」の導入が検討されており、この制度が観光客にどのように受け止められているのかを知るために、私は観光客にアンケートを実施した。観光客の中には、「少額なら環境保護のために払ってもよい」と考える人がいる一方で、「すでに宿泊費や食費で十分に貢献している」と反対する意見もあった。この調査を通じて、観光税の導入には観光客の理解を得ることが重要であり、そのためには明確な目的や使い道を示すことが必要だと感じた。



### C. 帰国後の活動

バリ島での留学を終えた後、私は静岡の観光産業とバリ島の関係について探究を続けている。その一環として、江の島で昨年の九月に開催されたバリ島の文化イベントに参加し、観光客や出店者へのインタビューを行った。このイベントには、バリ島を訪れたことのある人や、バリ文化に関心を持つ日本人が多く集まっていた。インタビューを通じて、日本人観光客がバリ島に求めるものは「癒し」や「非日常的な体験」であることが分かった。また、現地の文化や自然環境に対する関心が高い一方で、同時にバリ島の環境問題や観光による負の影響についてはほとんど知られていないことにも気づいた。この点は、静岡の観光産業にも共通しており、観光客に対して地域の環境保護や文化の継承について発信することの重要性を改めて認識した。今後は、バリ島と静岡の観光のつながりを深め、持続可能な観光の在り方を考える活動を続けていきたいと思う。

### 3. 今後の展望について

#### エヴァンジェリスト活動

- ・全校発表　・学校公開日でのトビタテ展示会の企画
- ・STC でのトビタテブース出展
- ・県内の高校での出前授業　ゲストスピーカー
- ・smile や Fuji' s teens での活動



バリ島での留学とその後の探究活動を通じて、私は「観光が地域社会や環境に与える影響」について深く考える機会を得た。特に、住民・企業・観光客の三者が協力することの重要性を学び、観光の恩恵が均等に行き渡らない現実や、観光客の意識を変える難しさを実感した。また、留学当初はホームシックやカルチャーショックでふさぎ込んでいたが、「頑張らなくてもいい」という言葉に救われ、自分らしく行動する大切さを学んだ。

高校3年生という時期にインドネシアに留学して多くの出会いや静岡の仲間とも出会うことができた。普段なら忙しさを理由に色々なことを諦めていたけど、トビタテを通して自分の心には素直でいるべきだと教えられた気がする。これからも自分の大好きな観光について探求していくと同時に、留学をしたい高校を増やすために自身の経験も発信していきたい。